



かがやけ！王子っ子

㊦んがえる子 ㊦んばる子 ㊦さしい子 ㊦んこうな子

東京都北区立王子小学校

校長 原田 英孝

令和5年4月6日

◆来校の際には、必ず、ネームプレートを着用し、受付をお通りください◆

お子さまのご入学、ご進級、おめでとうございます！

校長 原田 英孝

王子の桜が、新1年生の入学をお祝いするように、かわいらしいピンクに染まりました。柔らかに降り注ぐ春の日差しは、まるで王子小学校の子供たちを優しく包んでくれているかのようです。

本日、新1年生169名を迎え、全校児童809名での新たな船出となりました。教育目標「か・が・や・け」が目指す子供たちの育成と、その一人一人の児童に『生きる力』と『確かな学力』をはぐくむため、教職員一丸となって教育活動に全力を尽くして参ります。保護者の皆様・地域の皆様におかれましては、今年度も、本校への変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

さて、改めて“王子小学校の教育目標”をご覧くださいませでしょうか。教育目標を設定するとき、多くの学校で「知・徳・体」の3つの力の育成を柱とすることが一般的となっています。しかし、本校では「㊦んがえる子（知）」「㊦んばる子（心）」「㊦さしい子（徳）」「㊦んこうな子（体）」の4つを教育の柱としています。これは、王子小学校が、「考えて行動し、自分の行動に責任をもてる人の育成」を目指すとともに、「他者に対する 優しさ」や「何事にも粘り強く取り組む たくましさ」、「健やかな生活の土台となる 健全な身体や体力」をバランスよく育てていこうという思いを表しています。

いくら知識が豊富で知恵が回っても、どれほど体力に秀でていても、優しさのある振る舞いや、思いやりの心を持ち合わせていなかったとしたら、予測不可能な課題が山積しているこれからの時代を、他者と協働して切り拓いていくことは非常に困難ですし、何よりも「人としての完成」を為し得ることはできません。

世界的な紛争が長期化し、生きることへの不安が募りやすい今こそ、互いを思いやる心や譲り合う気持ち、粘り強さや忍耐強さを大切にすることが、個人の幸せのみならず、コミュニティーの繁栄や人としての品格を保つためにとっても重要となってきます。これまで子供たちは、保護者の皆様や地域の方々に、温かく見守られながらすくすくと育ってきました。その明るく素直な王子の子供たちが、これからも健やかに成長していくために、学校は皆様とともに力を合わせて教育の充実に努めて参りたいと思います。

末筆となりましたが、本校第48代校長として着任しました原田英孝です。北区随一の歴史と伝統ある“王子小学校”の校長職を任された責任の重さを痛感しておりますが、人情味あふれるこの街で、人と関わる教育の仕事が出来ることに、大きな喜びを感じております。今年度も教職員一同、微力ではありますが、子供たちの人間形成と夢の実現のために全力を尽くして参りますので、変わらぬご支援とご助力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。